さいくうあと通信

発　　行　明和町　斎宮跡・文化観光課
（明和町大字馬之上 945 番地）
電話：0596-52-7126　FAX：0596-52-7133
E-mail：saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

新しい指定文化財の紹介

～上村のシメナワ日待ち（ひま）～

令和５年２月 27 日に開催された教育委員会において、新たに町指定無形民俗文化財に指定されました。

この行事は、上村自治会の中組（16 軒）において、集落の入口付近に毎年シメナワを架け渡す行事です。かつては毎年７月 １ 日を「シメナワ日待ち」と呼び実施していましたが、現在は６月下旬の日曜日に、組頭と「シメナワ当番」を中心に行っています。

集落の入口に架け渡されたシメナワ

行事の詳しい様子は、Youtube の当課公式チャンネルでご覧いただけます。

①縄綯いの様子、　②ミョウガとモモの取り付け、
③取り付け状況、　④シメナワの架け渡しの様子、
⑤大日寺境内の庚申塔と山の神への参拝

行事では、用意された稲ワラを数名がかりで綯（な）い、長さ約８ｍのシメナワを作ります。シメナワの足の部分に、ミョウガの葉とモモの枝を取り付ける点が特徴です。途中、数名が大日寺に向かい、境内に祀られている山の神と庚申塔に御神酒と洗米を供え、お参りします。シメナワが架けられる場所の付近にはかつては山の神の碑もあったとされ、今も名残りが見られます。

シメナワには結界的な意味があり、集落へ災厄が侵入することを防ぎ、集落の安全を願うものと考えられます。あしに付けるミョウガは香りが強く、モモには邪気を払う信仰があり、住民の息災を願う強い想いが見られます。新型コロナウイルスの感染拡大の中でも行事は継続されています。

三重県下では、類似の行事として伊賀地方で「勧請縄（かんじょうなわ）」と呼ばれる行事が見られるほか、南伊勢町でもシメナワを架ける行事があり、15 箇所ほどが確認されています。ただし、上村の事例とは実施時期や飾りつけなどに差異があり、県内全体の類例行事の在り方を考える上で貴重といえます。

参考文献：福田良彦『地方史研究第 72 回三重大会発表資料』

行事関連地図

新しい登録文化財の紹介　明和町「初」！！　国登録有形文化財

～乾家住宅門及び塀～　～澄野家住宅主屋～

国の文化審議会は、令和 5 年 3 月 17 日に開催された文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、登録有形文化財の新登録について、文部科学大臣に答申されました。明和町では斎宮地区の伊勢街道沿いの 2 件について新登録の答申があり、町内では初の登録となります。

【名　　称】乾家住宅門及び塀（いぬいけじゅうたく　もんおよびへい）

【年　　代】江戸時代後期／昭和中期改修

【建築面積】門：間口 2.9m　塀：総延長 39m

（※街道沿いの東西方向 33m（門間口含む）＋敷地内に延びた南北方向 6 m）

街道側外観（北から）

乾家住宅は明和町大字斎宮を通る伊勢街道の南側に立地します。江戸時代、斎宮周辺は旅籠屋や茶屋などが並び、伊勢神宮に向かう参宮客でにぎわいました。

乾家は、江戸時代には神宮の直轄領であった斎宮村の庄屋を務めた旧家です。領主である神宮から伝達される指示や禁令を周囲の村々に伝達する「触頭（ふれがしら）」としての肩書を持つとともに、周囲の各村を統括し領主である神宮と直接交渉を行った大庄屋的な役割も担いました。

門は切妻造（きりづまづく）り本瓦葺きの薬医門（やくいもん）で、高さは約 2.4mです。門の柱・扉はケヤキ材が用いられています。塀は桟瓦葺きの真壁造（しんかべづく）り黒漆喰（くろじっくい）仕上げで、下半を下見板張（したみいたば）りとします。塀は、門の西側に 17.3m、東側に 12.7m延び、街道沿いの全長は 33m（門の間口 2.9mを含む ）です。

乾家住宅門及び塀は旧家にふさわしい重厚な造りであり、伊勢街道沿いの街並みを形成する貴重な建造物です。

【名　　称】澄野家住宅主屋（すみのけじゅうたく　おもや）

【年　　代】大正 5 年 (1916 年)/ 昭和 40 年頃 , 令和元年改修

【建築面積】107 ㎡

街道側外観（北東から）

澄野家住宅は明和町大字斎宮を通る伊勢街道の南側に立地します。江戸時代、斎宮周辺は旅籠屋や茶屋などが並び、伊勢神宮に向かう参宮客でにぎわいました。

澄野家は、江戸時代には現在の場所から北東約 50mのところに住居がありましたが、大正時代に現在の土地に主屋を建築し、屋号を「キグスリヤ」として薬原料の仕入れ、製薬・問診・処方などを行いました。「キグスリヤ」は昭和 20 年代に廃業しましたが、現在も製薬の道具が残っています。

主屋は、つし二階建ての切妻造り平入りの町家です。正面に格子を構え、軒雁木板（のきがんぎいた）をつけています。内部は東を通り土間とし、「ミセ」「ダイドコ」「ブツマ」「オクザシキ」が田の字型に配置されています。

現在は「菓子工房すみ野」、まちかど博物館「いつきのみや 音と生活（くらし）の博物館 澪標（みおつくし）」として使用されています。澄野家住宅主屋は、良材を用いた上質な町家で、伊勢街道沿いの歴史的景観を形成する重要な建造物です。